

# 福島第一原子力発電所現地確認報告書

## 1 確認日

令和8年3月16日（月）

## 2 確認箇所

- ・ JAEA第2棟建設予定地（図1）
- ・ 1号機北東側陸側遮水壁（図1）

## 3 確認項目

- （1） JAEA第2棟建設工事の状況
- （2） 陸側遮水壁ブライン供給配管等の保護カバー設置状況

## 4 確認結果の概要

### （1） JAEA第2棟建設工事の状況

日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）は、事故により発生した燃料デブリ等の性状把握に資する分析を行う施設として、福島第一原子力発電所構内に放射性物質分析・研究施設第2棟（以下「JAEA第2棟」という。）の建設を進めている。

JAEAは、令和7年3月25日に県、大熊町及び双葉町からJAEA第2棟の設置について了解を得た後、同年3月31日に建設工事に着手した。

県では当該工事の進捗状況を継続的に確認しており、本日も、その取組の一環として現地確認を実施した。（前回確認：令和8年2月16日）

- ・ 現地確認時、1階壁の設置作業が行われており、前回確認時に未設置であった北側及び東側の壁については、コンクリート打設が完了していた。
- ・ コンクリートセル\*の壁面をステンレス板で被覆する作業が行われていた。
- ・ 地下階では設備機器の設置が進められており、デブリ等の分析時に発生した廃液を一時的に貯留するためのタンクが設置されていた。

※放射能レベルの高い物質を扱うために、厚いコンクリート壁で遮へいされた部屋のこと

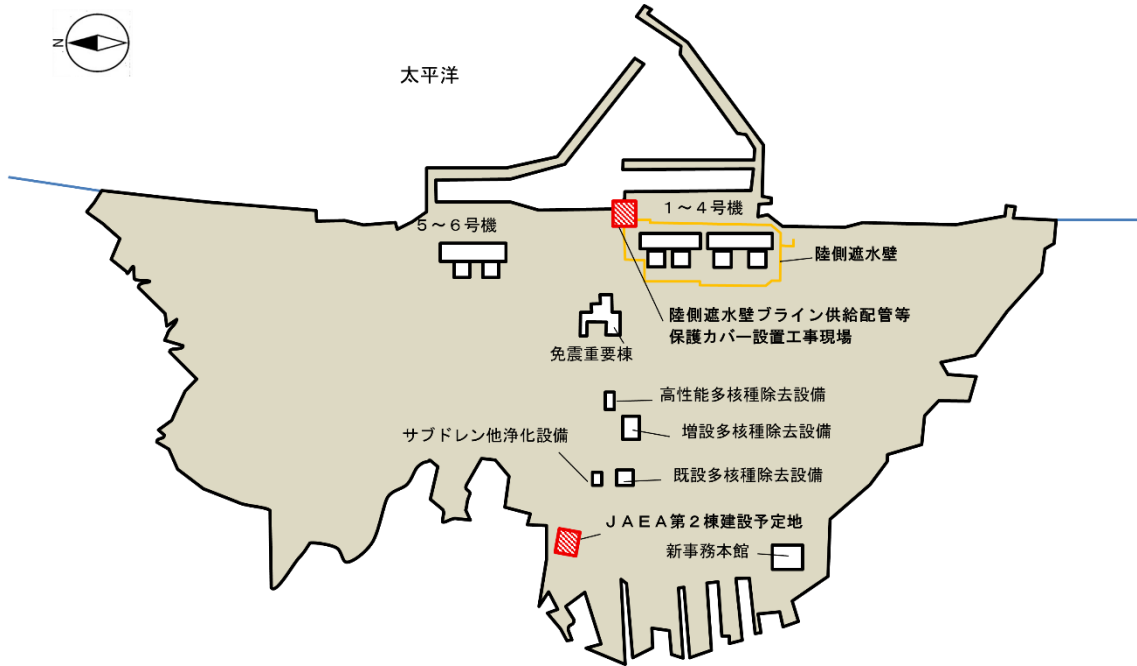
### （2） 陸側遮水壁ブライン供給配管等の保護カバー設置状況

東京電力では、地下水が原子炉建屋等に流れ込むことで生じる汚染水の量を減らすため、陸側遮水壁（凍土方式）を設置し、汚染水発生量の低減を図っている。この陸側遮水壁は、1号機から4号機の原子炉建屋やタービン建屋等を囲い、西側（山側）から東側（海側）に向かって流れている地下水を遮水している。

一方、陸側遮水壁のうち、1号機北東（物揚場付近）の冷媒配管（以下「ブライン配管」という。）は、日本海溝津波防潮堤の外側に位置していることから、当該配管を津波から保護するカバーの設置が進められている。2

月18日に下段側の保護カバーの設置が完了したことから、その状況を確認した。（前回確認：令和7年12月8日）

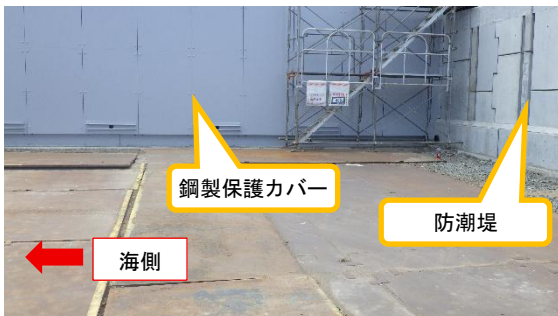
- ・鋼製の保護カバーの設置が完了していた。保護カバーの機能に影響を及ぼすような損傷は認められなかった。（写真1）
- ・確認した範囲において、ブライン配管からの漏えい等の異常は認められなかった。（写真2）



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1－1）  
鋼製保護カバー設置工事の状況①



（写真1－2）  
鋼製保護カバー設置工事の状況②



(写真2)  
ブライン供給配管の状況  
※保護カバー内の様子を撮影

## 5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。